



発行所 磐城日日新聞社
社址 福島県小浜町小浜51番地
電話 31855番

試掘権の存続にもう一歩

権利の獲得に利権屋暗躍

試掘権存続期間の盲点
を衝いて巧みに移行
鑛山の保護鑛区予備鑛
の権利の獲得をねら
うプロカーの魔手が
續出してはと傳えら
れ真面目な企業家に大
きな脅威を與えよう
と企てている

【磐城】小名浜通信に對する所感

【磐日】たかせ・かすみ

磐城毎日新聞十二月五日
日第一五五号の「小名
浜通信」の後段に掲載
された記事(評論)
に對し、いささか所感
を述べて見たいと思
う

日素赤追放

世論調査

日本水素工場労働組合
ではレット・パリーに
就いて、(1)今度の問題
をどう考へるか(2)署名
運動に参加するか(3)今

浄水場工事竣工

水道委を開き引渡完了

小名浜町水道委員会は
平、江尻三郎、佐藤
貞吾、小野禮一の各委
員に木村委員長、菅原
助、山野副議長、林

日素労組が

越年資金要求

小名浜日本水素工場労働
組合では第十三回中
央委員会が決定した越
年資金要求案に就き昨

工場誘致委

原ノ町調査

去る三日午前十時より
小名浜町役場町長室に
於て工場誘致委員会を
開催した。出席者は委

測度専任官

の派遣要請

東北海運局小名浜支局
では新造、改装船舶の
屯積決定の係官鈴木氏
が長期欠勤のため業務
に支障を來たしている

小名浜視察

の派遣要請

福島縣長多摩重義氏外
六名は去る四日小名浜
町役場を訪問、行政並
に都市計画に付調査
終つて大浦主事の案内
で港灣施設、魚市場等
を視察した

とを認識する必要がある
るのでなからうか」と
痛烈に三文記者を罵倒
し、最大級の形容詞を
もつて非人非道である
ことを認識する(誰に
呼びかけているのかあ
りまいだが)必要があ
るのではなからうかと結
論しているが、サギ、
恐喝、横領、暴行等を
働いた新聞記者は過去
において報道されたこ
ともある

先には交渉されている関
係上石原氏並に伊藤土
木部長等の頭切りが
この際町民大會を開催
して経過報告をなし今
後の運動方針を決定し
てはどうかという發言
もあつたが決定をみず
正午散會した

「元來彼等をして新聞
報道の任務を果せる記
者と見る事それ自體
(体の誤植か)が誤りで
あるかと思ふ、彼等は
報道の大責任を棚の上
に喰ふとする爲の
「サギ」である」とい
うも軽率な判断である
それは新聞報道の任務
を果せる記者と明記し
た新聞を適確に示さな
い「ノレン(暖簾)に
腕押し」と同様、暗中
摸索で迫力が無い
「故に社會から請ける
(字か受の誤植か)待遇
を悪用してサギや搦拂
いやスリを常習として
居るもの何の記者だろ
う、記者として扱ふ事
が甚だ勿体ない話して
ある、彼等の行為は全
くの非人非道であるこ
とを認識する必要がある
るのでなからうか」と
痛烈に三文記者を罵倒
し、最大級の形容詞を
もつて非人非道である
ことを認識する(誰に
呼びかけているのかあ
りまいだが)必要があ
るのではなからうかと結
論しているが、サギ、
恐喝、横領、暴行等を
働いた新聞記者は過去
において報道されたこ
ともある

大浦主事と鈴木正武氏
よりの通知をもとに協
議に入つた
倉敷レヨン株式会社
としては現在、操業中
の富山日産五噸の工場
を十噸に擴張するの
先決問題でありその完
成後における成績によ
り福島縣の小名浜が原
ノ町に決定するような
財であるが目下の處外
資導入の見通しも未定
だから工場新設の決定
は二、三年後のことと
思われる
従つて運動を持續する
ことはよいか空騒ぎを
するのどちらかと思ふ
という鈴木正武氏の意
向につきその線にそつ
て運動をすることを協
議し一應小野縣會議員
を首班として原の町を
行き現地を調査工場誘
致に對する構想等を見
聞して小名浜町と比較
検討することになつた
なおビロン工場誘致
に對する小名浜町と比
較して大浦主事の案内
で港灣施設、魚市場等
を視察した

自動電壓調整器
漁船電機ノ大革命
蓄電池 不要節約
經費 節簡無
取故 故障絶

酒は 林城の井 磐城櫻
目澤齒科
小名浜町竹町八

御挨拶
去る三日小名浜劇場に於て校内放送設備
資金助成音樂會を開催しましたところ絶
大なる御援助に預りお陰を以て予想以上
の好成果を得たことを衷心より感謝致し
ます、こゝに取あえず紙上をもつて厚く
御禮申上げるとともに將來をもつて御
支援あらんことをお願い申し上げます
昭和二十五年十二月六日
小名浜第二小學校PTA會長
外 長 瀨 芳 郎
外 役 員 一 同
小名浜第二小學校々長
外 増 子 銀 一 同
外 職 員 一 同



